日本語

STUDIOSHIFUKU.COM

ホームページ：
kyle@studioshifuku.com

Instagram:
@studio_shifuku

名物裂（めいぶつぎれ）の研究や会員限定のコンテンツ、仕覆制作過程をご覧いただけます。以下のリンクから私のPatreonへのご参加をご検討ください：
patreon.com/studioshifuku

仕覆の結び方をご覧になるには、QRコードをスキャンするか、次のリンクにアクセスしてください：studioshifuku.com/yourshifuku

Copyright Kyle Whittington 2024. All rights reserved.

日本の皆さん、はじめまして！
スタジオ仕覆(Studio Shifuku)のカイル・ウィッティントンです。

私は4歳の頃に裁縫を始めて以来、これまで長年に渡ってファッションやインテリアデザイン（カーテンやシルクのランプシェードの縫製等）に携わり、お茶の世界においてもさまざまな仕事をしてきました。

20年前、The Project Trustに参加して英語講師として北海道に赴任した際に地元の裏千家の教室で茶道を学び始めたのをきっかけに、帰国後はロンドン大学SOASで日本美術史の学位を取得し、その後2017年より広島の武家茶道、上田宗箇流に転向してアダム·宗夢·ヴォイチンスキ氏の下で再び茶の湯を真剣に学び始めました。現在ではアダム先生指導の下、自分の生徒を受け入れられるレベルにまで達し、更なる研鑽に励んでいます。2018年に恩師であるアダムから仕覆制作挑戦の機会をいただいてからは新たな道が開け、2019年に仕覆制作を中心とするアトリエ「Studio Shifuku」を立ち上げました。更に2021〜2022年にはハンプシャーにある自宅のロフト部分にテキスタイルをテーマにしたオリジナル茶室「Sew(ソウ)庵」を完成させるなど、様々な角度から茶の湯への学びを深めています。

新たな冒険

〜2024年夏〜

昨年、2023年はStudio Shifukuにとって非常に重要な年となりました。それは、光栄にも初の個展を"お茶好き達のオアシス"、「ポストカード・ティーズ」で開催できた事に他なりません。このお店はロンドン中心地のメイフェアと言う賑やかな立地にも関わらず、店内はまるでアートギャラリーの様に静かで喧騒を感じさせない、心落ち着くティーショップなのです。メイン商品の茶葉だけでなく、茶器やお茶関連の商品のセレクトセンスも素晴らしく、スタッフはいつも明るい笑顔でお客様を迎えてくれる私自身のお気に入りのお店でもあります。初めての個展開催の夢がこの様な最高の場所で叶えられた事は私自身にとって身に余る光栄であり、関係者のティム、ヘイデン、そしてチームの皆様のご協力には心より感謝を申し上げます。

嬉しい事に初めての個展は大成功を収め、最初の「取扱店」であるポストカード·ティーズでは引き続き常設展示として私の作品を取り扱って下さっています。一つ一つ思いを込めて作り上げた作品が今後もお客様の目に触れる事、そして気に入って下さった方のお手元に届く事にこの上ない喜びを感じています。その昨年の個展で開化堂茶筒用の仕覆を制作したご縁で今年は開化堂さんからお声掛けをいただき、京都での展示会が開催される運びとなりました。さらに今年はミュンヘンで第三代佐々木昭楽(松楽)氏との共同展示も計画されている他、来年2025年にはプラハ·ティーフェスティバルにも出展を予定しています。

茶入や茶碗など、茶道具の形に合わせて特別に仕立てられる仕覆は正に"クチュール(仕立て服)"そのものだと言えるでしょう。このカタログでは、私が制作したさまざまな作品を通して仕覆とは何か、またどのように機能するかをご紹介しております。掲載されているほとんどの作品は見本通りにご注文いただける他、生地や仕上げを変えて新たにご注文いただく事もできます。紐は各作品のテイストに合わせて一から制作しており、裏地もオプションでお好みのものにご変更いただけますので、是非この機会に世界に一つだけの完全オリジナル仕覆をお求めいただければ幸いです。

展示会以外では通常、世界各地にいるお客様とはオンラインにてデザインのご相談させていただいております。ほとんどの場合、独自の測定方法を用いて作品を制作しておりますのでお客様から貴重な茶道具をご郵送いただく必要はありません。制作期間はその時点での受注数や展示会のスケジュール等により多少異なりますが、完成品のお届けまでには通常数ヶ月のお時間を頂戴しております。

私の作品は伝統的なものから新しいチャレンジやアプローチを試みた作品まで多岐に渡り、仕覆以外にも古帛紗、敷帛紗、数寄屋袋、志野袋、大袋など、茶の湯で使われる全ての布小物の制作に携わっております。その中で新たな生地の取り合わせ方や技法にも積極的に取り組み、制作と並行して進めている名物裂の研究は創造的な作品の制作やその解釈においてさまざまな影響を与えてくれています。

名物裂の研究はウェブサイトPatreon (patreon.com/studioshifuku) からアクセスできる他、このサイトでは毎週リリースされるニュースレタービデオや写真を通じて私の作品をより詳しくご紹介しております。

この様な私の仕事内容に対し、今年の初めに京都の取引先様より「袋師(ふくろし)」という特別な称号を賜りました事を作家として大変光栄に思っております。

これまでの活動は常に協力を惜しまずサポートを続けてくれたパートナーのレイ、展示会の準備に尽力してくれた親友のパックスなど、周囲の方々のサポートなくしては到底実現できませんでした。素晴らしい写真でこのカタログに命を吹き込んでくれたポストカード・ティーズのヘイデン。2018年初めに私をこの仕覆の旅へと導いてくれた茶の湯の恩師であるアダム。そして、隆さん、マルセル、ネシム、佐々木さん、クリスティンは今後の展示会の開催にお力を貸して下さいました。更に、ここ数年私の作品を開花、成長させてくれた大切なお客様達。名物裂の研究を翻訳し私の創造性を養ってくれたロイスにも感謝を。そしてもちろん、このカタログに命を吹き込むために快く協力してくれたローズ、ジル、スミエにも感謝しています。

最後に「パトロン」として私の作品作りを応援してくれているネシム、カーステン、アンダーソン、マージョリーに感謝を伝えます。
そして、アダム、エリック、ポーリーン、スミエ、マリウスには格別の感謝を。

カイル

The first shifuku

結び方について

茶の湯の世界には様々な流派があり、それぞれの流派特有の点前や所作において様々な違いがあるのですが、仕覆の紐の結び方もまた然り。茶入、茶碗、棗、志野袋など、それぞれの袋物によって結び方が異なりますし、短緒、長緒と紐の長さの違い、点前の途中の紐の結び方、休め紐の結びの違い、更に奥伝や道具によって違った結び方もあります。 また、香道では月毎に結び方を変える場合も。 私も通常は流派の教えに従っていますが、展示や撮影の際には紐の結び方を変えて作品の個性を 強調する事があります。
私の仕覆をお使いの際には、それぞれの流派の結び方で結んでください。

開化堂茶筒専用仕覆

昨年、ロンドンのティーショップ「ポストカード･ティーズ」で開催された個展用にデザインされたラインが今年ついに京都開化堂にて、日本の皆様にもお披露目できる運びとなりました。 40g、100g、120gのサイズを基本としていますが、他の全てのサイズでの対応も可能です。規格化された美しい開化堂の茶筒に合わせて仕覆をデザインする事で袋師として新たなステージへの扉が開けた事を作家として大変嬉しく思っております。 この小さな宝物をお茶を愛する多くの人に楽しんでいただけますと幸いです。

様々な生地と紐、裏地の組み合わせでのご購入やご注文が可能で 40g茶筒用の仕覆は190ポンド~ ご購入やご注文をお受けしています。

デニム仕覆

デニムは仕覆をよりカジュアルに楽しむためにおすすめの素材で、無地のデニム生地の裏地にはあえて個性的な柄を合わせて、紐を解いた時の驚きやワクワク感を感じていただけるように工夫して おります。「ファンキーデニムシリーズ」、「フワフワデニムシリーズ」はポップな色使いに加えて質感と手触りを追求している他、ワイルドなテイストがお好きな方には新たにメゾン･マルジェラに影響を受けた限定シリーズ、生地を絵の具で大胆に彩色した「ペインテッドデニム」をご紹介させていただきます。

様々な生地と紐、裏地の組み合わせでのご購入やご注文が可能で 40g茶筒用の仕覆は190ポンド~ ご購入やご注文をお受けしています。

"シリーズG" No.6レザー仕覆

2024

バルセロナのデザイナー、エストレラGがデザインしたヴィンテージのレザージャケットを再利用した最高級の黒ナパレザーを使用した仕覆です。裏地は黒のシルク、紐はキャノングレーで、一作品ごとに私の花押と通し番号が刺繍されています。
写真は40gの開化堂茶筒用、No.6。
(開化堂、京都、2024年)

開化堂用レザー仕覆は40gサイズ320ポンドよりご注文を承っております。
茶入用レザー仕覆は革代別で280ポンドより。
こちらの写真の作品価格は320ポンドです。

開化堂用レザー仕覆は40gサイズ320ポンドより

松楽(昭楽)仕覆

こちらは第三代佐々木松楽(昭楽)氏との新しいコラボレーション作品で、松楽氏と昭楽窯の作品に合わせて制作したものです。この3点は2023年のポストカード·ティーズ展で初めて発表したもので、2024年12月にはミュンヘンのアンアースド·ギャラリーにて『Studio Shifuku x SHOURAKU』の初の共同展の開催を予定しております。

ダブルレイヤー仕覆

2023

日本の陶芸界の巨匠、第4代佐々木松楽(昭楽)氏との共同展示に向けて作品作りに取り組む中で、佐々木氏の高い芸術性を備えた美しい作品を纏うに値する自身の新たな作品へのアプローチが必要だと感じました。そこでベースとなる生地の上にチュールを重ねて茶入の半透明の釉薬が土の上に溜まって流れていく様子を仕覆で表現してみました。また、佐々木氏の独特な金の使い方にも影響を受けて、私の茶室の壁と同じ金色の生地を用いて制作したこの作品は、趣きの異なった2枚の生地を重ねる試みによってより深みのある躍動的な作品へと昇華する事ができました。この面白い工夫は茶道具を拝見（鑑賞したり扱ったりすること）されるお客様にとっても茶室内での一興となる事でしょう。金色と緑色の紐の組み合わせは茶入の深緑の釉薬をイメージしたものである事も申し添えておきます。

Studio Shifuku所有品
こちらの作品は生地代別で200ポンドよりご注文を承っております。
掲載品は仕覆と茶入れのセットで465ポンド。
茶入は第4代佐々木松楽(昭楽)氏作。

シルクロード (2023)

英国のマーヴィック・テキスタイルズのオリジナル生地を使って世界各所から見たテキスタイル柄の捉え方の違いを表現しているのがこの「シルクロード」です。

豪華で鮮やかな「カトマンズ」にデザインされているペイズリー柄は英国では異国情緒を連想させる一方、日本では大変英国的な柄の様にも思われているようです。そこで、この作品では世界の異なる地域によって柄の見方や解釈にも違いがある事にスポットライトを当ててみました。濃い金と赤色の糸を螺旋を描く様に編み込んでいる紐の柄にもご注目いただけますと幸いです。

Studio Shifuku x Shourakuコレクションはご購入可能です。
こちらの仕覆と昭楽窯の茶入はセット価格290ポンド。

ハイランド (2023)

この茶入のスモーキーな薄いピンク色の釉薬は、英国を代表する柄として知られる濃紺と深緑のタータン柄「ブラック・ウォッチ・モダン」の色彩に対して強いコントラストを生み出しています。そして、紐の柔らかな藤色はダークな色調との対比を改めて強調する一方で釉薬の柔らかな色合いに同調し、かつ日本の伝統的な紫色の紐を思い起こさせながら日本とスコットランドの微かな繋がりを表現しています。

Studio Shifuku x Shouraku コレクション
個人所有品/英国

タータンライン

日本の名物裂に相当する英国の布地を挙げるとすれば、それはスコットランドが起源のタータン チェックではないかと思います。 現存する4000種類以上のタータンには無限の選択肢があり、伝統的な美しいピュアウール織りは、茶の湯の世界でも様々な用途で活用する事ができます。同じ柄でも生地のどの部分を切り取るかによって様々

展示作品はご購入できる他、注文のご依頼も受け付けています。

特別イベントのための仕覆

私は自分の仕事を「茶道具のクチュール」である、と表現することがあるのですが、それはオーダーメイドの仕覆は、特別に仕立てられたガウンのように、ひとつひとつが道具に美しく沿うようにデザインされ、仕立てられているからです。そして「初釜2024」(写真中央)のように特別な日のためにデザインしたり、選ぶこともあり、茶事のテーマやイベントの内容に合わせて様々な表情を加えることができます。

特別なイベントのための仕覆

価格は生地代別で170ポンドより

左から
ロンドン・ティーフレンズ・サマー・ティーフェスト2023年用仕覆。
-個人所有品/アメリカ

2024年初釜用 "ロバート・バーンズ"がテーマの仕覆。
-Studio Shifuku所有品

ロンドン・ティーフレンズ・サマー・ティーフェスト2024年用仕覆。
-茶入付きで購入可能

ドレス･スチュアート

2024

有名なチェコの陶芸家ヤン・パヴェックにより作られた作品(茶入として使用)の釉薬の色からインスピレーションを得て選んだのがこちらの「ドレス・スチュアート」。英国王室公式のタータン柄である"ロイヤル・スチュワート"中でも控えめな色調の組み合わせで、仕立てた時に茶入の釉薬の色を引き立てるよう、柄の切り取り方を工夫しました。紐は茶入と仕覆を引き立てる柔らかなマゼンタ色です。

Studio Shifuku所有品
こちらのスタイルは生地代別で170ポンドよりご注文を承っております。
Jan Pavek作の茶入の価格についてはお問い合わせ下さい。

金網つじのCircle Tea Infuser用仕覆

2023年のポストカード・ティーズ展のために特別に制作された仕覆で、金網つじの"Circle Tea Infuser"用にデザインしました。旅行や野点の際の持ち運びを考慮し、移動中も常に茶こしが固定されるよう閉じた時のフィット感を大切に、デザイン性と機能性を追求しました。また、紐は使い勝手を考えて短緒を採用しています。

価格は生地代別245ポンドから随時ご注文を承っております。
こちらの作品価格は255ポンド。

重ね湯呑み用の仕覆

茶入の他にも茶碗や急須などの茶器を収納したり、一つずつまたは複数まとめて自由に収納できる仕覆は幅広い用途でご活用いただけます。仕覆一点一点はお客様のご要望に合わせてジャストサイズでお作りしているため、見た目に美しいだけでなく大切な茶器を傷めない機能性も備えています。

ご注文は生地代別で180ポンドより承っております。

こちらの重ね湯呑み用の仕覆にはフェルト製の"ヘダテ"が付属している他、よりクッション性の高いシルクのヘダテも追加料金にてご依頼を承っております。また、それぞれの茶器に合わせて形やサイズ、素材の変更にも対応しておりますのでお気軽にご相談下さい。
次頁の「箱型仕覆」は特殊な形状や壊れやすい茶道具にも合わせられる理想的な形となっています。

箱型仕覆

2022-23

箱型仕覆は正方形の底部に補強用の底板を組み込んだデザインで、私はこの新しい形を通して仕覆がどの様に茶道具を保護するかを研究しています。この仕覆の中にはイギリスの陶芸家、シャーロット・グリンリングの球形の作品を収納しているのですが、元々は茶入ではなく別の用途で作られたものを見立てて使用しています。通常の仕覆とは異なり、長緒の紐と上部に高さがある特殊な形状をしているため点前の際は扱いに少し注意が必要ですが、この「箱型」は球形以外にもさまざまな形との組み合わせが可能です。底板を用いる事で高い保護効果を発揮しているため、変則的な形や壊れやすいアイテムの保管にも適しています。

仕覆に用いた青と白、薄い灰色の3色は茶入の色彩をそのまま作品に反映させました。

Studio Shifuku所有品
価格は生地代別で290ポンドよりご注文を承っております。

志野袋

志野袋とは茶道と香道の両方でお香の収納に使われている円形の巾着で、本体部分は2種類の異なる裂地(例: 1枚は金襴、もう1枚は緞子など) で振り分けになるように作られているものの、何故その様な形で作られたのか、その由緒は伝わっていないそうです。私は作品を作る過程で使用する生地、装飾、紐 (紐とつがり) を通して、さまざまな方法でこの謎を探求しています。

価格は生地代別で170ポンドからご注文を承っております。

数寄屋袋

数寄屋袋は、茶道の稽古や茶会に出席する際に懐子や帛紗、扇子と言った細かな道具を入れておくために用いられる男女別、または男女兼用でお使いいただけるA5サイズ程の袋です。私は伝統的な生地や柄以外にもさまざまな取り合わせや、革をはじめとした布以外の作品作りにも取り組んでいるのですが、数寄屋袋はお茶道具を収納する正規の用途以外にも、お財布やハンカチなどの小物を収納する和風クラッチバッグとして、食事会やパーティー、観劇など幅広いシーンでもご活用いただけます。

価格は生地代別で150ポンドより、随時ご注文を承っております

ヒストリア･コレクション

2021 & 2022

茶道の古文書である『南方録』は、茶の湯の芸術性と精神性の発展において、最も重要な文献の一つと言えます。17世紀後半頃に書かれた『南方録』は、足利義政将軍が考案した初期の茶道についての口伝を記録し、また、千利休の侘茶の発展、利休が武野紹鴎と共に考案した茶道具、そして初期の茶人たちが用いた点前についても詳述しています。
その中には、天目茶碗を仕覆に包んで茶室に飾り、その天目台も同じく仕覆に包んで共に飾るという点前があります。この天目茶碗と天目台の仕覆を用いることで、初期の茶法を改めて想像し、現代の茶の湯において再現することができます。

これら二つの仕覆は、アダム･宗夢･ヴォイチンスキ氏の研究により再現されました。

patreon.com/adamsomu

個人所有品/フランス
価格は生地代別で210ポンドよりご注文を承っております。

ヴェルサーチ・ジーンズ・クチュール

2021

名物裂の伝統は、昔の高級な衣服の織物を再利用していた事に由来しています。そのため、極上の生地で作られているものの現在はサイズアウトしてしまった2007 年頃のヴェルサーチ VJC クチュール ジャケットを仕覆として作り直すのは最高の使い道だと思い至りました。(細かく繊細な幾何学模様が織り込まれた生地はまさに仕覆にぴったりでした！)

こちらの作品は入手できる生地の量が限られるため、全ての作品には通し番号が振られており、現在までに作られたのはカタログ掲載作品を含む3点のみとなっています。最初のヴェルサーチ仕覆は手編みの紐とつがり（紐を取り付けるための撚り紐）を特徴としている私の作品の起源となるもので、制作後、広島の上田宗箇流の本拠地である和風堂に寄贈され、季刊誌「和風」2022年夏号に掲載されました。

Studio Shifuku所有
価格は生地代込み210ポンドより(こちらは生地に限りがあるためご注文をお受けできる数量に限りがございます。

ディオール・ダーリン

2023

名物裂「宗薫緞子(そうくんどんす)」について調べているうちに、クリスチャン・ディオールが1954年発行のパリ版のヴォーグ誌掲載のコートに宗薫緞子を使用していたことを知りました。(!) ディオール・ダーリンはその時の写真から直接インスピレーションを得て制作したものですが、実は名物裂の命名に関する疑問を提起している作品でもあります。と言うのも、名物裂は使用した人物(この場合は1552年生まれの茶人、今井宗薫）にちなんで名付けられている事から今後はこの名物裂の名称を「ディオール緞子」に改名してもよいでは…？と思っているからです。(笑)

この仕覆は小さなコートの形をしていて、中には英国の陶器メーカー「ロイヤルウースター社」の六角形の蓋付き容器(茶入に見立てたもの)が収納されています。仕覆上部と裏地にはディオールのヴィンテージプリントスカーフを使用し、本物さながら前ボタンを留めて茶入を取り出す"コート仕立て"になっています。
(コートに付いている小さな前ボタンにもご注目下さい！)

個人所有/日本
生地代別で240ポンドよりご注文を承っております。
こちらの作品は515ポンド。

ガウン

2023

「ガウン」は仕覆の形状と開閉に着目する事で「茶道具のクチュール(仕立て服)」というアイデアをより深めるきっかけをくれた作品です。最初の閃きは、「茶入の"へそ"を見せつけるレッドカーペット風の仕覆が欲しい！ 」というお客様からの要望がきっかけでした。それを受けて、茶入の新しい形状を追求した結果、2007年から2008年頃にクリスチャン･ディオールのジョン･ガリアーノが発表した、背中が大胆に開いた「ティラード･バック」スタイルからインスピレーションを得て、紐を大胆に前面に配置するデザインを採用しました。この仕覆は腕のような両側の突起部分のすぐ下までは茶入にぴったりと布地をフィットさせ、腕の上側はふんわりとしたシルクのひだが贅沢に上部を覆うスタイルになっているのが特徴です。タッセル風に大きく強調された紐がレッドカーペット女優の存在感を高めている、モードファッションの要素をふんだんに取り入れた華やかな作品です。

個人所有/カナダ
生地代別で525ポンドよりご注文を承っております。
こちらの作品価格は560ポンド。

チェーンメール

2023

チェーンメールは仕覆が道具を守る事の真の意味について問いかけた作品です。ご存知の通り、鎖かたびらは古く戦場での防具や防御手段の一種として使われた事から、日本の歴史において茶の湯が生まれた戦国時代を彷彿とさせるものとなっています。

この作品を制作するにあたり、私は微細なチェーンの一つ一つをチュール素材の土台に縫い付けるという気の遠くなる作業を繰り返し、保護用の生地で補強した後、最後に私の花押(刺繍によるサイン)が施された黒いシルクの裏地を取り付けました。この様な特殊な素材を仕覆として形にするためには構造や形をはじめとする数多の新たなアプローチが必要で、制作の過程において次々と課題が山積していきました。

今後は経年変化で銀の金属素材が徐々に変色し、現在の煌びやかな雰囲気がより柔らかい侘びた美しさへと変化する過程を楽しめる作品となっています。

個人所有品/フランス
価格は素材代別で1,200ポンドよりご注文を承っております。
こちらの作品価格は1350ポンド。

ビーズの四畳半仕覆

2019

仕覆を装飾して生地に変化を加えるという新しいアイデアを試みた初期の作品で、古典的な四畳半茶室のレイアウトをデザインに取り入れました。新緑の畳を表す緑色の生地に黒のビーズで畳のアウトラインを描き、金色の絹の裏地は時の流れと共に褪色する畳の色彩を表現しています。この作品ではビーズの継ぎ目や、縫い終わり部分の始末を美しく見せるための計算が非常に厄介で、最初の型紙制作に最も労力を注いだ思い出深い作品です。

Studio Shifuku所有品
ご注文価格は生地代別で400ポンドより承っております。
こちらの作品と茶入のセット価格はお問い合わせ下さい。

サイン・ミー

2023

パリ発のファッションブランド「メゾン・マルジェラ」をご存知でしょうか。サイン・ミーは私のお客様がペイントや落書きが施されたマルジェラの奇抜なファッションアイテムやヴィヴィッドなヴァレンティノ の「ホットピンクコレクション」(2022-2023)を愛用していることに強く影響を受けて制作した作品です。

「沓形/くつがた」と呼ばれる特殊な楕円形の茶碗に合わせて制作した仕覆にはホットピンクのデニムジャケットを再利用しています。潰れた茶碗の形状に合わせて縫い目が側面のくぼみにぴったり沿うよう慎重に設計と制作を進め、完成後は更に茶碗が中に入った状態でマルジェラ風に白い塗料でペイントを施してその筆の勢いを作品に閉じ込めるという特別な一手間を加えました。

紐は 3色の黒い絹糸を織り混ぜて液体インクを表現しているのですが、これは将来、この仕覆に何らかのサインやメッセージが書き込まれる事を示唆しています。現在ロンドンのV&A 博物館に所蔵されているサンディ・パウエルのスターのサイン入りスーツからインスピレーションを得たこのアイデアは、時を重ねる中で茶碗と仕覆に関する日付や出来事、署名などが徐々に書き込まれ、最終的にそれが表面を覆ってインクの紐と融合するという流れを予想したものです。この作品が現在から未来へと続く時間の中で仕覆の役割とその生涯について考えるきっかけとなれば幸いです。

個人所有品/フランス
茶碗用仕覆のご注文は素材費別で280ポンドから承っております。
こちらの作品は310ポンド。

クラウド・ギア・コレクション

2023年に発表した最初のコレクションは麻の布地に絹糸と金糸で刺繍された雲の模様が特徴のデザインですが、こちらは過去数年間に渡って自ら茶室作りや仕覆制作に携わった経験を基に、茶の湯の世界で古帛紗や袋物などの布製品にどの様に価値を見出していくかという疑問を投げかけた作品となっています。
詳細はstudioshifuku.com/cloud-gireをご覧ください。

作品のご購入やご注文は随時承っております。

STUDIOSHIFUKU.COM

Second Edition - Summer 2024